

日中平和友好条約締結40周年記念

シルクロード 国際シンポジウム &トークセッション



敦煌莫高窟



奈良・東大寺大仏



日中平和友好条約締結40周年

登壇者紹介 ※順不同

青木 健 氏

静岡文化芸術大学教授

1972年新潟県生まれ。東京大学文学部イスラム学科卒。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士(文学)。現在、静岡文化芸術大学・文化芸術研究センター教授。著書として、『ゾロアスター教の興亡』(刀水書房、2007年)、『ゾロアスター教』(講談社選書メチエ、2008年)、『ゾロアスター教史』(刀水書房、2008年)、『アーリア人』(講談社選書メチエ、2009年)、『マニ教』(講談社選書メチエ、2010年)、『古代オリエントの宗教』(講談社現代新書、2012年)、『ゾロアスター教ズルヴァーン主義研究』(刀水書房、2012年)、The Wiley Blackwell Companion to Zoroastrianism (共著、オックスフォード、2015年)など。訳書に『マニー教』(青土社、2014年)。



井上 隆史 氏

東京藝術大学特任教授

「歴史への招待」等のディレクターとして主に歴史番組を担当。プロデューサーとして文明・歴史・美術に関連するNHKスペシャル等の特集番組、大型シリーズ番組の制作に携わってきた。代表作「絵巻切断・秘宝三十六歌仙の流転」「大黄河」「大モンゴル」「中国12億人の改革開放」「家族の肖像」「四大文明」「新シルクロード」「アフガニスタン秘宝の半世紀」などがある。2013年から東京藝術大学で、アフガニスタンなどのテロや紛争で危機に直面するシルクロード文化遺産の保護・保存事業に取り組む。



籾内 佐斗司 氏

東京藝術大学大学院教授

彫刻家、東京藝術大学大学院教授(文化財保存学)。1953年大阪市生まれ。東京藝術大学および同大学院で彫刻を専攻する。その後6年間、同学保存技術研究室で仏像の材料技法と保存修復を研究する。大学を離れた後は、文化財修復で知り得た技法をもとに独自の彫刻技法を案み出し、日本人の自然観や仏教的世界観を「童子」というキャラクターを用いて多くの作品を生み出す。2004年に、独立法人化後の最初の公募教授として現職に就き、文化財保護の後進の育成とたくさんの仏像修復に携わる。さまざまな媒体を通じて行うわかりやすい仏像や仏教の解説には定評がある。著書に、「壊れた仏像の声を聴く」(角川選書)、「ほとけさまの凶鑑」(小学館)、「仏像礼賛」(だいわ文庫)ほか多数。



<http://uwamuki.com>
<http://www.tokyogeidai-hozon.com>
<http://www.facebook.com/uwamuki1>

宮田 亮平 氏

文化庁長官

金工作家。新潟県佐渡に蠟燭鍍金作家の2代目宮田藍堂の3男として生まれる。1972年に東京藝術大学大学院美術研究科工芸専門課程(鍍金専攻)を修了。イルカをモチーフとした「シュプリング」シリーズなどの作品で、「宮田亮平展」をはじめとして、国内外で多数の展覧会に参加。「日展」内閣総理大臣賞や、「日本現代工芸美術展」内閣総理大臣賞など数々の賞を受賞し、2012年に日本芸術院賞を受賞。2005年より東京藝術大学学長として2期10年に渡り大学経営を務めた後、2016年4月より文化庁長官に就任。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会「東京2020エンブレム委員会」委員長も務めた。



みうら じゅん 氏

イラストレーターなど

1958年京都市出身。武蔵野美術大学在学中に漫画家デビュー。イラストレーター、作家、ミュージシャンなどとして幅広い分野で活動。1997年「マイブーム」で新語・流行語大賞受賞。2005年日本映画批評家大賞功労賞受賞。2018年仏教伝道文化賞沼田奨励賞受賞。興福寺「阿修羅ファン倶楽部」の会長。『マイ仏教』『「ない仕事」の作り方』など著書多数。



いとう せいこう 氏

作家・クリエイター

1961年生まれ、東京都出身。1988年に小説「ノーライフ・キング」でデビュー。1999年、「ボタニカル・ライフ」で第15回講談社エッセイ賞受賞、「想像ラジオ」で第35回野間文芸新人賞受賞。近著に「鼻に挟み撃ち」「我々の恋愛」「どんぶらこ」『「国境なき医師団」を見に行く』『小説禁止令に賛同する』などがある。執筆活動を続ける一方で、宮沢章夫、竹中直人、シティボーイズらと数多くの舞台をこなす。



みうらじゅんとは共作『見仏記』で新たな仏像の鑑賞を発信し、武道館を超満員にするほどの大人気イベント『ザ・スライドショー』をプロデュースする。音楽活動においては日本にヒップホップカルチャーを広く知らしめ、日本語ラップの先駆者の一人である。現在は、ロロロ(クチロロ)、レキシ、DUBFORCEで活動。テレビのレギュラー出演に「ビットワールド」(Eテレ)、「白昼夢」(フジテレビ)、「フリースタイルダンジョン」(テレビ朝日)、「ザ・モノシリスト!」(BS朝日)、「トウキョウウもっ!2元気計画研究所」(TOKYO MX)などがある。

日中平和友好条約締結40周年記念

シルクロード 国際シンポジウム &トークセッション

2018年12月13日(木)

日経ホール

主催：文化庁、東京藝術大学、日本経済新聞社、
中国日本友好協会

後援：外務省、文化遺産国際協力コンソーシアム、
中国大使館、ウズベキスタン大使館

協力：敦煌研究院、日本中国文化交流協会



ウズベキスタン、ワラフシヤ遺跡出土の壁画



敦煌莫高窟



奈良・東大寺大仏

日中平和友好条約締結40周年記念

シルクロード 国際シンポジウム &トークセッション

開催日時：2018年12月13日(木) 12:30～21:00

会場：日経ホール(東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル)

主催：文化庁、東京藝術大学、日本経済新聞社、中国日本友好協会

後援：外務省、文化遺産国際協力コンソーシアム、中国大使館、ウズベキスタン大使館

協力：敦煌研究院、日本中国文化交流協会

シルクロードは交易の道であると同時に多様な文化交流の道でもあり、歴史と魂を変える道でもありました。1978年、シルクロードが世界の熱気に包まれていたさなか、日中間で平和友好条約が結ばれました。今年はその40周年にあたります。日本と中国は互いにさまざまな問題を抱えながらも両国間の努力と途切れることのない交流によって友好と理解を深めてきました。

このシンポジウムは、シルクロードを多彩な自然と多様な人間が織りなす豊かな景観として再びとらえなおし、新しい時代に添う日本と中国および中央アジア諸国との文化の絆を多角的な視点から語り合おうとするものです。みなさまのご参加によって、シンポジウムが世紀の流れにより活力をあたえるものとなることを願っております。



日中平和友好条約締結40周年

シルクロード国際シンポジウム

「文化が紡ぐ道—敦煌・中央アジア・奈良—」

12:00 -	開場
12:30 - 13:00	挨拶 前田耕作氏 東京藝術大学客員教授／程海波氏 中国日本友好協会副秘書長／王旭東氏 敦煌研究院院長
13:00 - 13:30	講演1「シルクロード研究への日本の貢献」 入澤崇氏 龍谷大学学長・教授
13:30 - 14:15	講演2「近年のシルクロード考古学の新発見と研究」 林梅村氏 北京大学教授
14:15 - 15:00	講演3「敦煌—シルクロード文化の宝庫」 張元林氏 敦煌研究院敦煌学情報センター長 兼 シルクロードと敦煌研究センター長
15:00 - 15:15	休憩
15:15 - 16:00	講演4「ウズベキスタンの仏教文化」 シャキルジャン ピダエフ氏 ウズベキスタン国立科学アカデミー芸術学研究所長
16:00 - 16:25	講演5「神々のシルクロード—ゾロアスター教、マニ教、キリスト教、イスラーム」 青木健氏 静岡文化芸術大学教授
16:25 - 17:30	映像「シルクロード・弥勒の道を探る」 解説 前田耕作氏 東京藝術大学客員教授

総合司会 井上隆史氏 東京藝術大学特任教授

※日⇄中、日⇄露逐次通訳あり
※演題、講師、講演内容、講演の時間は予告なく一部変更になる場合がございます。予めご了承ください。
※本イベントの録音、撮影はお断りさせていただきます。

シルクロード トークセッション

作仏・観仏三昧談義

18:30 -	開場
19:00 - 19:05	挨拶 宮田亮平氏 文化庁長官
19:05 - 19:10	津軽三味線演奏 山下靖喬氏 東京藝術大学
19:10 - 20:05	トーク1「ほとけの意味とそのかたち」 藪内佐斗司氏 東京藝術大学大学院教授
20:05 - 21:00	トーク2「仏像大使、シルクロードを語る」 みうらじゅん氏 イラストレーターなど／いとうせいこう氏 作家・クリエイター

※演題、講師、講演内容、講演の時間は予告なく一部変更になる場合がございます。予めご了承ください。
※本イベントの録音、撮影はお断りさせていただきます。

登壇者紹介

※順不同

前田耕作氏

東京藝術大学客員教授

1964年、名古屋大学学術調査団の一員としてアフガニスタンの仏教遺跡の調査に従事して以来、西アジア、中央アジアの古代宗教遺跡の調査をおこなう。2003年よりパーミヤン仏教遺跡の保全・修復にかかわっている。2016年に東京藝術大学がおこなったアフガニスタン特別展《素心 パーミヤン大仏天井壁画》に参加、2018年から始まった《弥勒の世界—未来像の生成》に参画している。現在東京藝術大学客員教授。著書に『巨像の風景』(中公新書)、『宗祖ゾロアスター』(ちくま学芸文庫)、『アフガニスタンの仏教遺跡パーミヤン』(晶文社)、『玄奘三蔵 シルクロードを行く』(岩波新書)、『バクトリア王国の興亡』(ちくま学芸文庫)などがある。



王旭東氏

敦煌研究院院長

研究館員、工学博士。敦煌研究院院長、ならびに中国国家古代壁画と土遗址保護工程技術研究センター長、国際岩の力学学会(ISRM)古代遺跡保存委員会主席、中国古跡遗址保護協会副主席など。蘭州大学兼職教授、同博士課程指導教授、西北大学兼職教授、同博士課程指導教授。主に石窟、古代壁画と遺跡の保護、文化遺産の予防的保護などの分野の研究に従事する。10件以上の国際協力プロジェクトを主導、あるいは主要メンバーとして参画し、170編以上の学術論文を発表する。共同出版した『シルクロード古遗址環境図集』など専門書6冊。国家科技進歩賞2等賞、国家發明賞4等賞、甘肅省科技進歩賞1等賞を受賞したほか省部级褒賞8賞。取得した技術發明の特許などは10件以上、5件の国家および業界技術基準の制定を主導した。



林梅村氏

北京大学教授

北京大学考古文博学院教授、1956年4月生まれ、原籍広東、北京出身。1978～1982年、北京大学考古学専攻科で学ぶ。1982年、中国文物研究所に就任し、助理研究員、副研究員を務める。1994年より北京大学考古系(現考古文博学院)にて、副教授、教授、博士課程指導教授を歴任。2012年より国際記念物遺跡会議(ICOMOS)会員。1984年から現在まで、イギリス「BSOAS(ロンドン大学東洋アフリカ研究学院刊)」「Antiquity」、ドイツ「Central Asiatic Journal」、日本「古代文化」、中国「考古学報」「文物」「考古」など内外の学術刊行物に100編以上の論文を発表。『西域文明』(北京:東方出版社、1995年)、『シルクロードと中国古代文明—流沙の記憶をさぐる』(NHK出版、2005年)、『観滄海——大航海時代諸文明的衝突と交流』(上海古籍出版社、2018年)など学術専門書16冊。



張元林氏

敦煌研究院敦煌学情報センター長 兼
シルクロードと敦煌研究センター長

研究員、史学博士。敦煌研究院敦煌学情報センター長兼同シルクロードと敦煌研究センター長、中国敦煌トルファン学会常務理事。2014～2015年、ハーバード燕京研究所「共同研究」訪問学者。主な研究分野は敦煌仏教図像および敦煌とシルクロード芸術の比較研究。『北朝——隋時期敦煌法華図像研究』『敦煌文化探微』など専門書(共同出版含む)7冊、翻訳書1冊、国内外で50本以上の論文を発表する。



程海波氏

中国日本友好協会副秘書長

1967年3月 中国浙江省生まれ
1987年 国際関係学院卒業
1998年 中国駐福岡総領事館領事
2005年 中日友好協会政治交流副部長
2006年 中日友好協会政治交流部長
2010年 中日友好協会友好交流部長
2015年 中日友好協会副秘書長



入澤崇氏

龍谷大学学長・教授

1955年広島県因島生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。1990年龍谷大学文学部仏教学科に着任。ベゼクリク石窟壁画の復元事業や数多くの仏教遺跡調査に従事。2004年から5年間アフガニスタン仏教遺跡調査隊の隊長を務める。龍谷ミュージアム館長、文学部長を経て、2017年4月に学長就任。専門は仏教文化学(アジア各地域における仏教の受容と変容を研究)。「仏教は果たして西にどこまで広まったか」といった国際的なテーマで研究を行っており、学長として大学経営の第一線で活躍。仏教の教えてある利他の精神を育む教育の推進を第一に掲げる。



シャキルジャン ピダエフ氏

ウズベキスタン国立科学アカデミー
芸術学研究所長

1947年タシケント市生まれ。1971年、ウズベキスタン国立大学(旧タシケント国立大学)の歴史学部考古学専攻科を卒業。1976年、サンクトペテルブルク(旧レニングラード)市で歴史学準博士(Ph.D.)・考古学専攻の学位論文『バクトリア北部のクシャーナ朝時代の集落』の公開審査に合格。1966年以降、中央アジアでの考古学調査に参加。バクトリア調査団を指揮したほか、ソビエト・アフガニスタン考古学調査団にも参画した。1979年からはテルメズ調査団やウズベキスタン南部で活動する数多くの国際共同調査団の団長を務める。2005年にウズベキスタン共和国科学アカデミー考古学研究所所長に就任し、2009年からは同芸術学研究所所長。

主な研究対象は古代および中世のウズベキスタン、中央アジア、アフガニスタン、インドの歴史学、考古学、貨幣流通、物質文化、芸術、宗教。これまで、約20冊の学術書・小冊子および200以上の論文を出版した。主な著書として『バクトリア北部のクシャーナ朝時代の集落』(タシケント、1978年)、『南ウズベキスタンの古代貨幣目録』(タシケント、1981年、E.V. ルトヴェラゼとの共著)、『New Finds of Uzbek Archaeology』(大阪、2002年、加藤九祚との共著)、『Termez sur Oxus Cite-capitale d'Asie』(パリ、2008年、Pierre Lerisheとの共著)、『古代ウズベキスタンの仏教と仏教遺産』(タシケント、2011年)がある。

